

琉球開闢之事

The Creation of Ryukyu

はるか昔、天の城にアマミキヨという神がいました。
天帝はアマミキヨを呼び、こう言いました。

「この下に神が住める霊処がある。
しかしまだ島となっていない。
降りて島を作ってきてくれまいか」

アマミキヨが下界へ降りて見ると、
霊地とは言え、東の波は西の海へ、
西の波は東の海へ打ち越して、
まだ島をなしていません。

海

神の島「久高島」の北端「カペール岬」から臨む海。



ヤハラヅカサ

母なる海は、私の原点

叶えたい夢や目標に向かって「あれもこれも」と、自分に多くを求めてしまう…。そんなとき、決まって訪れるのが「ヤハラヅカサ」。はじまりのこの場所で、波の音や潮の香りに包まれる。母親の胎内にいたときのように。

その度に「足りないことも、私の強み。そのままがいい」と許された気持ちになります。肩のチカラを緩めて、また一步前へ進む。南城市の海は、前進するために何度でも戻って来られる、私の原点。

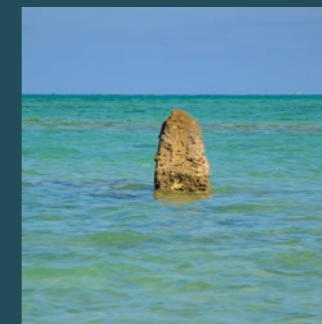
(南城市大里 城間小巻さん)

はじまりの海



久高島（くだかじま）

アマミキヨが降臨したとする島。数々の祭祀が島の人々によって受け継がれる。神の島として琉球国王も参拝した。



ヤハラヅカサ

アマミキヨが第一歩を記したとされる浜。揺れる波間に後世の人によって据えられた石碑が凧と建つ。

琉球王府の正史「中山世鑑」には「琉球開闢之事」として琉球の天地創造が記述されています。南城市にはそれらにまつわる神話が数多く残されており、まさにこの地が沖縄の「はじまりの地」であることを物語っています。

OCEAN: The official history of the Ryukyu Kingdom, Chuzan Seikan, describes the creation of the Ryukyu Islands in the “Ryukyu Kaibyaku no Koto” (The Creation of the Ryukyu Islands). This states that a deity called Amamikiyo descended to Earth after receiving an order from the Emperor of Heaven. At that spot, the spiritual land was under the waves.

In this legend, there is Kudaka island, the island in Nanjo where Amamikiyo landed, and Yaharazukasa, the beach on the mainland of Okinawa where he first set foot. For this reason, Nanjo is known as the 'place of beginnings'. Nanjo's citizens still cherish these places.

緑

アマミキヨは天へ上り、天帝へこう伝えました。
「土石草木をいただければ、島をつくりましょう」
天帝は土石草木をアマミキヨに授け、
アマミキヨはそれを持って下界へ降り、
島を作りました。

ユネスコ世界遺産「斎場御嶽」にある6つの拝所のひとつ「寄満(ゆいんち)」の森。

まず一番に、辺戸の安須森御嶽、
次に、今帰仁カナヒヤブ、
次に、知念森、斎場御嶽、藪薩の浦原、
次に、玉城のアマツツ、
次に、久高島のフボー御嶽、
次に、首里森、真玉森、
そして、島々国々の、嶽々森々を作りました。



斎場御嶽

私たちの心の土台

当たり前そこにあったけど、もし失ってしまったらどれほどの喪失感か…。斎場御嶽はきっと、私たちの心の土台なんだと思います。

世界遺産に登録されてから、観光客が増えました。観光客が増えて恩恵を受けることもたくさんあります。しかし、どこまでも増えたいとは思いません。

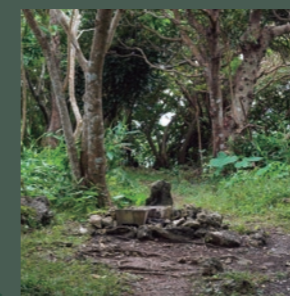
斎場御嶽はあくまでも聖地です。多くの人々の祈りが折り重なった場所であり、地域住民が古から保全し、大切に継承してきた場所です。ここを訪れる方には、当時の人々がどんな心でこの場所を訪れていたのか、想像していただけたらと思います。

(南城市知念 平山元さん)

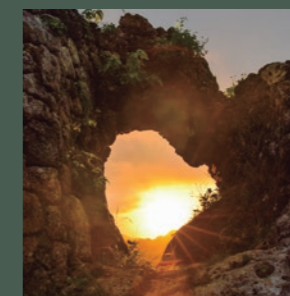
聖なる森



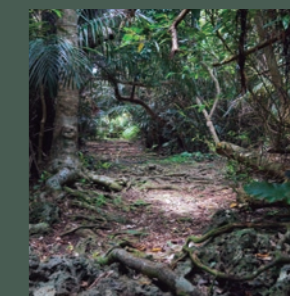
知念城跡 (知念森)



藪薩の浦原



玉城城跡 (アマツツ)



フボー御嶽

アマミキヨが島建ての際に作ったいくつかの聖地のうち、5つが南城市に点在しています。これらの聖地は「御嶽(うたき)」と呼ばれ、大小数えると市内に多数存在し、今も人々の信仰の対象となっています。中でも「斎場御嶽」は琉球最高の聖地とされ、2000年に「琉球王国のグスク及び関連遺産群」のひとつとしてユネスコ世界文化遺産に登録されました。

GREEN: The deity Amamikiyo created islands and numerous Utaki (places of prayer) using earth, stones, plants and trees. Five of these - Chinen Castle Site, Sefa-utaki, Yabusatsu no Urabaru, Tamagusuku Castle Site and Kubo-utaki - are scattered around Nanjo.

Sefa-utaki is considered the most sacred site in the Ryukyu Islands and was given the status of a UNESCO World Heritage Site in 2000 as one of the 'Gusuku and related heritage sites of the Kingdom of the Ryukyu Islands'. Although the number of tourists has increased, we believe it is important to preserve the site as a place of prayer.



どんなに辛い夜も、美しい朝が来る

南城市のミュージカル「太陽の門」の出演に向けた稽古期間。お芝居という慣れない環境で、心のバランスを崩しかけていました。そんな時に友人の誘いではじめた朝日を見る「朝活」。一日のはじまりに南城の朝日が元気と希望を与え、私を救ってくれました。

どんなことがあっても太陽は沈み、必ずまた昇る。巡る命のように。先人から受け継いだ一日一日を、一生懸命、生きよう。南城の上がり太陽は、そう思わせてくれる力がある気がします。私も、次の世代へ、命をつないでいこう。

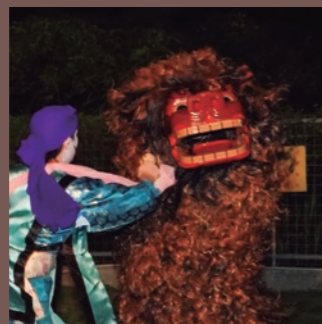
(南城市佐敷 永山ゆりかさん)

現代に受け継がれる心



ヌーバレー

旧盆の翌日、豊作を願い、無縁仏をあの世へ送るため、地域を挙げて唄や舞の伝統芸能を披露する。



獅子舞 など

豊年を願い祝う、農村の暮らしに紐づいた獅子舞や綱引きなど、数多くの伝統芸能が地域の絆を結んでいます。

古来より、沖縄では太陽の昇る東方のことを「アガリ」と呼び、そこは理想郷・ニライカナイのある聖なる方角であると考えられていました。首里城を中心として、太陽が昇る東方(アガリカタ)に位置する南城市は、多くの聖地・祭祀が残っています。

祈りは、唄となり、舞となり、伝統文化となって私たちの身体を通して受け継がれ、今を生きる私たちの心を結びつけています。

光

それから数万年経っても人はなく、
これでは神の権威が示されないと
アマミキヨは天に上り、
人の種子を乞われました。

天帝はこう告げました。
「天に神は多いが下界へ降ろせる神がない。
しかし黙っているわけにもいかぬ」
天帝の御子である男女を
下界へ降ろしました。

二人が交わることはありませんでしたが、
住まいが並んでいたために
往来する風が縁を結び
三男二女が生まれました。

長男は国王のはじめで天孫氏となり、
二男は諸候のはじめ、
三男は百姓のはじめ、
長女は君々のはじめ、
二女はノロのはじめとなりました。

久高島から昇る朝日。古の人々は、沈んだ太陽は「テダガアナ」(太陽の穴)を通して再生すると考えた。

Nanjo's inherits its rich culture and performing arts from its ancestors. Nanjo is located in the east, where the sun rises and gives energy to its people. Traditional culture and the daily sunrise remind us of the connections between all life.

LIGHT: Amamikiyo asked the Celestial Emperor for a human seed. The Celestial Emperor sent his son and daughter. Three boys and two girls were born there. They became the ancestors of kings, lords, peasants, kimigimi (high ranking priestesses) and noro (priestesses), respectively.